



地域研究集会

2021 年度九州沖縄地区合同シンポジウム

## 海洋学・生物地球化学と水産資源研究の融合に向けて

日時：2021 年 11 月 22 日（月） 10:00 – 17:00

開催方法：現地開催及びオンライン開催

現地会場：長崎大学水産学部 水産第一講義室

（現地参加の場合下記ホームページからの申込が必要です）

共催：日本海洋学会沿岸海洋研究会、日本海洋学会西南支部

コンピーナー：

北島 聡（水産機構資源研）、近藤能子（長大院水環）、堀井幸子（水産機構資源研）

ホームページ：<https://sites.google.com/view/9osymposium>

**開催趣旨：**近年の環境 DNA、安定同位体比、微量金属元素などの分析技術の進展は著しく、これらの成果は生物地球化学や生物海洋学の分野でブレークスルーをもたらしてきた。こうした流れを受け、海洋環境と密接に関わる水産資源研究分野においても新たな試みが始まっており、水産重要種の栄養段階把握や分布・回遊経路の推定などで、今までにない知見が得られつつある。本シンポジウムでは九州・沖縄周辺での事例を中心に、広範に海洋学・生物地球化学・水産資源学・魚類生態学の研究事例について情報交換し、生物地球化学や生物海洋学の新たな手法による資源研究の高度化を目指す。

**プログラム：**

10:00 – 10:05 挨拶

10:05 – 10:15 趣旨説明・事務連絡等

**【基調講演】** 座長：北島 聡（水産機構資源研）

10:15 – 10:55 東シナ海における基礎生産からマアジの加入量変動まで—文科省事業「黒潮生態系変動機構プロ研」成果から

○高橋素光（水産機構資源研）

10:55 – 11:35 現場観測および顕微鏡観察・画像解析による海洋粒子の性状解明

○山田洋輔（沖縄科学技術大学院大）

11:35 – 13:00 休憩



【一般講演】 1 件当たり 20 分 (講演 15 分+質疑 5 分)

座長：近藤能子 (長大院水環)

- 13:00 – 13:20 日本周辺海域における海洋酸性化と二酸化炭素の吸収・放出  
○飯田洋介 (気象庁)・石井雅男 (気象研)
- 13:20 – 13:40 海水中のビタミン B<sub>12</sub> の光化学反応による 影響に関する研究  
○川上有希子・近藤能子・高谷智裕 (長大院水環)
- 13:40 – 14:00 底層水の貧酸素化期間が異なると微生物群集と物質循環も移り変わりながら変化する  
○吉田和広・折田 亮・松岡英輝・木村 圭・小林元太 (佐賀大農)
- 14:00 – 14:20 閉鎖性内湾の貧酸素水塊形成期におけるカタクチイワシの分布動態  
○伊藤優花・片岡宗一郎・広瀬美由紀・鈴木利一・松下吉樹 (長大院水環)・丸山裕豊・眞角 聡・内田 淳・青島 隆 (長大水)・和田 実 (長大院水環)
- 14:20 – 14:40 平衡石分析から推測したヤリイカ *Heterololigo bleekeri* の生態  
○山口忠則 (九州大)・Jihwan Kim (ソウル大)・広瀬直毅 (九州大)

14:40 – 15:00 休憩

座長：堀井幸子 (水産機構資源研)

- 15:00 – 15:20 日本海におけるマイワシ新規加入群は複数の成育場から来遊する  
○坂本達也・高橋素光 (水産機構資源研)・白井厚太郎 (東大大気海洋研)・石村豊穂 (京大人間環境)
- 15:20 – 15:40 耳石酸素安定同位体比を用いたマアジ稚魚の近底層移行の要因推定  
○榎本めぐみ・伊藤進一 (東大大気海洋研)・高橋素光・佐々千由紀 (水産機構資源研)・樋口富彦・白井厚太郎 (東大大気海洋研)
- 15:40 – 16:00 高解像度耳石 $\delta^{18}\text{O}$  分析による東シナ海・日本海マアジの生育環境推定  
○武藤大知 (京大人間環境)・坂本達也・高橋素光・北島 聡 (水産機構資源研)・石村豊穂 (京大人間環境)
- 16:00 – 16:20 東シナ海域のマアジ生息環境は変化したのか? -1960 年代と 2000 年代の比較-  
○樋口富彦 (東大大気海洋研)・高橋素光 (水産機構資源研)・榎本めぐみ・白井厚太郎・伊藤進一 (東大大気海洋研)
- 16:20 – 16:40 東シナ海における人工衛星可視光データを利用した灯光漁船の分布及び時間変化を推定する手法の検討  
○齋藤 類・直江瑠美・廣江 豊・高崎健二・宮下智一 (水産機構資源研)

16:40 – 16:55 総合討論

16:55 – 17:00 閉会の挨拶